農産物県下第１号地域ブランドに認定

加西ゴールデンベリーＡ

▲（撮影）桑原田町　神戸孝樹さんの農園で

「加西ゴールデンベリーA」は、平成19年5月、製品名と産地名を組み合わせた地域団体商標登録「地域ブランド」に認定されました。農産物としては県下第1号です。

また、加西市は県内最多の出荷量を誇るぶどうの産地で、ＪＡ兵庫みらい農協ぶどう部会（大西啓之会長）には１３６名の農業者が所属しています。

「加西ゴールデンベリーA」の特徴は？

加西ゴールデンベリーAは、昭和49年「マスカットベリーA」という品種に種無し処理をして、長く「ゴールデンベリーA」として市場に送り出されていました。昨年兵庫みらい農協から、地域のブランドを広く県内外に知ってもらおうと「加西ゴールデンベリーA」として、地域ブランドの商標登録を申請したところ、平成19年5月に認定されました。

中粒で濃い甘みが特徴で、もともとは醸造用の品種だったため、黒光りするような美しい色をしています。大阪や京都を中心に出荷されています。

（加西農業改良普及センター福本さん談）

０からの挑戦　石田雅信さんご夫婦（ぶどう部会）

「人とのつながりを持てる、それが直売の醍醐味」

石田雅信さん（48）陽子さん（46）夫妻は、お互いに顔を見合わせながらそう話します。

石田さんは元々サラリーマンでしたが、ある日“新規就農募集の電車のつり公告"を見て、「農業をやりながら自然の中で暮らしたい」という思いに駆られ、平成5年に脱サラして加西市へやってきました。陽子さんは、突然の事に驚きながらも、自分は農業ではなく別の仕事をするつもりで夫・雅信さんについてきました。概して都会から農業をしようと田舎にやってくる人たちは、農業に対して「夢と希望」を持ち、期待に胸を膨らませてやってきます。

しかし現実は想像とは全く違い、朝早くからの辛い作業や、田舎独特の人間関係、さらに天候などによる収穫の不安定さなど、そこには一人で乗り越えることのできない壁が存在しました。そんな時石田さんの支えになったのは、陽子さんの存在。落ち込みやすい雅信さんを、明るい陽子さんが支えるようにして毎日一緒にぶどうを作り続け、今では生産も軌道に乗り、さらに市内にある「ぶどう部会」の副会長を務めるなど、地元とのつながりも強くなりました。

▲自宅横の直売所にて（左から陽子さん、雅信さん）

「加西に来て良かった事は？」と訊ねると「のんびりした自然や、やさしい人たちに囲まれて、子どもたちが素直に育った事と、人とのつながりを持つことができた事」と陽子さんは言います。そう言えるようになるまでには、きっと多くの苦労や悩みを乗り越えてきたことでしょう。

「農業は家族でやってこそ。自分一人では続けられなかった。」と雅信さん。ぶどうの出荷がピークを迎えるこの時期、東剣坂町の自宅横の直売所では夫婦並んでぶどうを売る姿を見ることができます。

●ホームページ　http://www.city.kasai.hyogo.jp
■広報かさいは、資源保護のため100%再生紙を使用しています。
大豆インキを使用しています。

発行／加西市
〒675-2395　加西市北条町横尾1000番地　☎0790㊷1110（代）
編集／加西市　経営戦略室　☎0790㊷8700　FAX0790-43-1800